

ロスアンゼルス (一)
日本人活動

グロサリー

一

二

三

四

五

六

七

八

九

十

十一

十二

十三

十四

十五

十六

十七

十八

十九

二十

二十一

二十二

二十三

二十四

二十五

二十六

二十七

二十八

二十九

三十

三十一

三十二

三十三

三十四

三十五

三十六

三十七

三十八

三十九

四十

四十一

四十二

四十三

四十四

四十五

四十六

四十七

四十八

四十九

五十

五十一

五十二

五十三

五十四

五十五

五十六

五十七

五十八

五十九

六十

六十一

六十二

六十三

六十四

六十五

六十六

六十七

六十八

六十九

七十

七十一

七十二

七十三

七十四

七十五

七十六

七十七

七十八

七十九

八十

八十一

八十二

八十三

八十四

八十五

八十六

八十七

八十八

八十九

九十

九十一

九十二

九十三

九十四

九十五

九十六

九十七

九十八

九十九

一百

一百零一

一百零二

一百零三

一百零四

一百零五

一百零六

一百零七

一百零八

一百零九

一百一〇

一百一一

一百一二

一百一三

一百一四

一百一五

一百一六

一百一七

一百一八

一百一九

一百二十

一百二十一

一百二十二

一百二十三

一百二十四

一百二十五

一百二十六

一百二十七

一百二十八

一百二十九

一百三十

一百三十一

一百三十二

一百三十三

一百三十四

一百三十五

一百三十六

一百三十七

一百三十八

一百三十九

一百四十

一百四十一

一百四十二

一百四十三

一百四十四

一百四十五

一百四十六

一百四十七

一百四十八

一百四十九

一百五十

一百五十一

一百五十二

一百五十三

一百五十四

一百五十五

一百五十六

一百五十七

一百五十八

一百五十九

一百六十

一百六十一

一百六十二

一百六十三

一百六十四

一百六十五

一百六十六

一百六十七

一百六十八

一百六十九

一百七十

一百七十一

一百七十二

一百七十三

一百七十四

一百七十五

一百七十六

一百七十七

一百七十八

一百七十九

一百八十

一百八十一

一百八十二

一百八十三

一百八十四

一百八十五

一百八十六

一百八十七

一百八十八

一百八十九

一百九十一

一百九十二

一百九十三

一百九十四

一百九十五

一百九十六

一百九十七

一百九十八

一百九十九

一百二十

一百二十一

一百二十二

お小夜

寺澤琴風

春の柔らかいよろしくした陽一橋ふものか。泥棒猫とは

が一ぱいに膨れたやうにあつた
若い子爵としての威厳がすつか

り儲はつてゐる。そしてぐるぐる兵古帶を巻いた大鳥の端ひ

も決して其の人の人品を卑し

くはない。其處へお掛け

哲郎は立つて、自分から離れて

お小夜はぎごちなく哲郎と向

ひ合つた。

「お小夜、お前

の胸には祕密といふ

言葉は悪いから

取消すが、お前

は何か心にあ

るね、僕はさう

思ふ、それと僕も

話してくれま

いか。僕にだけ

も話しても

いだらう。」

今度は

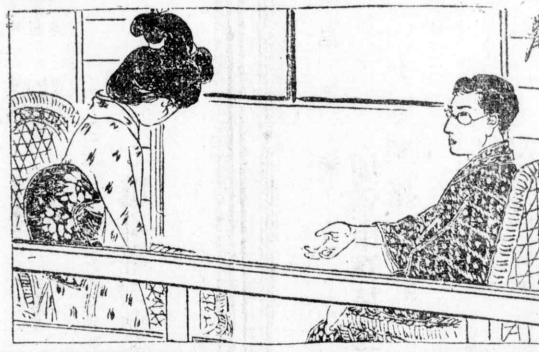
お小夜の胸に微かな笑み

が浮んだ時、向ふの様に、忽

然と立つた。

「お、お前、どういふ話

を多くなるかね。」



柳橋悲話(二)

六万圓の藝者屋

母さんがお前に對する意地悪が、此の頃は層裏つたのも、僕はよく知つてゐる。

「僕には多少想像されるかね。」

「お、お前、どういふ話

を多くなるかね。」

「お、お前、どういふ話

を多くなるかね。」